

# ユーラシアンホットライン

## [ 2011 年度の活動に向けて新春交換会のお誘い ]

大野 遼

「日本人クラブからの脱皮」を掲げて昨年春の総会・新春交換会を行いました。本年の新春交換会は、3 月 19 日(土) 午後 2 時から、東京・池袋東口徒歩 2 分の中華料理店「天府酒歌」で開催することになりました。

「アジアの時代」にふさわしい、アジアが見える活動を進めることを基本方針に、今年は「アジアから見える日本」を活動のテーマの一つにしたいと考えています。

このため、アジア諸民族の方々と連携した活動を目指します。

すでに確定している活動としては、今年 10 月 16 日(日)、千葉県君津市で浦川治造氏(東京アイヌ協会名誉会長、ユーラシアンクラブ副理事長)が立ち上げ運営している「カムイミントラ」で、「アジア SUMO フェスタ」を開催します。現在パンフレットを作成し、協力者、参加者を募集中です。

また昨年のテーマであった「アジアとつながる心のシルクロード」にそった活動としては、加藤九祚先生(ユーラシアンクラブ名誉会長)の 20 年にわたる北バクトリア発掘とくに 12 年の継続発掘調査の結果全容を明らかにしたカラテパ僧院伽藍建造物遺跡の保護や出土品の図録刊行を支援するとともに、ウズベキスタン最高の研究者の一人 E. ルトヴィラーゼ氏の「中央アジアの文明・国家・文化-シルクロード学序説」日本語版が今春刊行され、また同時に加藤九祚先生の記念碑的著作「天の蛇」(大佛次郎賞)が増補復刊されるのを記念して 5 月 18 日(水)「出版記念パーティ」が開催されるのを支援します。前者については、すでに東京文化財研究所の古代建造物専門家である亀井伸雄所長、清水真一文化遺産国際協力センター長に協力をお願いすると共に、外務省に対しても、昨年(2010)の米寿記念の催し(外務省後援)の報告と併せて協力をお願いの文書を提出しました。

「出版記念パーティ」参加者に配布されることになる「中央アジアの文明・国家・文化(日本語版)」には、新たにオクスサ学会の木古曳正夫氏が協力し、加藤先生が翻訳増補した、日本人の知らない「玄奘三蔵の旅」と題する一章も追加されます。内容は、玄奘の「大唐西域記」の旅を、中央アジアを中心とする古代遺跡の調査研究の結果に沿って、ルート解明を試みた、中央アジア 70 年の「玄奘学の成果」(古曳正夫・オクスサ学会設立発起人)で、国立民族学博物館退官後加藤先生が立ち上げた「国際シルクロード アカデミー」の節目となる出版物です。ぜひご参加ください。

また将来ユーラシアンクラブの活動の軸となる情報発信事業については「ホットライン アジア」(仮称)の立ち上げを目指し、アジア各地の優れた情報発信者との連携を模索し条件整備します。この中には、アジアのテレビ・ラジオ、インターネットを使用する人々・団体を含めます。

日本における地域拠点型事業としては、日本橋が、アジアの音楽史、音楽のシルクロードの時空を超えた終着駅であり、

三味線文化が最後の姿であることを、「三味線文化の再生」を目指した活動とリンクした形で進めていきたいと希望しています。日本橋で形成された清元、長唄、新内そして近世邦楽が地域に波及し津軽海峡まで達した時に誕生したのが津軽三味線でした。日本橋では、三味線文化の再生をテーマとしてフォーラムを立ち上げて、この間出会った邦楽関係者やこの三味線と深い音楽文化の歴史でつながるアジア・シルクロードの楽器演奏者が参加する音楽祭を日本橋で再スタートできるよう条件整備したいと思います。その最大の問題は財源と場所。何とか解決する努力をします。

地域拠点型の活動のもう一つは、私が住む神奈川県愛甲郡愛川町での、音楽を通してアジアが見える子どもを育てる「アジア子ども未来プロジェクト」です。すでに昨年は、愛川町の支援を受けて、愛川町文化会館で小中高生が、プロのミュージシャンと一緒に舞台上に上がり競演するフェスティバルや、シルクロードで最も音楽好きな民族ウイグル人の若者十数人が手まり学園を訪ねて交流するシルクロード音楽交流ワークショップ、モンゴル文化ナードムで地域の子もたちや小学校、子ども柔道クラブの児童に参加を呼びかけて実施したモンゴル音楽ワークショップ、そして 2 月 8 日、愛川町の小学校 3 校と協力して実施する音楽鑑賞教室などを開催します。

昨年秋から、サハの児童太鼓グループから再び愛川町での研修を希望する要望が示され、実施の条件を模索中であるほか、来年度には小学校での音楽鑑賞教室のほか、県立愛川高校で尺八製作と演奏のワークショップを検討しており、財源の確保にめどがつけいたら日本の音楽文化とアジアをつなぐ笛と太鼓の音楽フェスティバルを開催したいと希望しています。

いずれも 2 月中にはめどをつけて実施にこぎ着けたい考えです。みなさまのご理解ご支援をお願いいたします。また、助成財団や法人等、これらの事業にご関心があられ、資金面でご支援いただけそうな方や仕組み等ご存じの方はどうぞお知らせください。

また現在、4 年前、「アジアの瞳サマーフェスティバル」を開催したキルギスで、「アジアの響き」基金が発足し、「アジアの響き音楽祭」の開催準備のため、毎週、会議が行われています。実現すれば素晴らしいことだと期待しています。

ロシア連邦・シカチアリヤン村の「300 人の村の古代絵画展」は 2013 年開催の方向で動くことになりました。

3 月 19 日(土) 東京・池袋の新春交換会に是非おいでいただくようご案内いたします。(別紙参照)

## 【特集 アフガニスタン】

## アフガニスタンでの新年



江藤セデカ (NPO イーグルアフガン復興協会理事長、ユーラシアンクラブ副理事長)

ユーラシアンクラブ会員の皆様、2011 年の幕開けをいかがお過ごしでしょうか。

日本では、お正月は一年の中で最も大規模な行事ですが、アフガニスタンでは少し様子が違います。西暦は、暦の一つとして使われていますが、ペルシャ暦とイスラム暦が広く普及していることもあり、西暦の新年の祝い方は決して大きな行事ではありませんでした。

しかし、ここ 10 年ほどで西暦における新年に対する考え方が変化が見られるようです。アフガニスタンに在住する知人によると、西暦の新年を祝う人々が首都カブールを中心に徐々に増えてきているそうです。

国際機関、外国軍の駐留等による外国人の増加、インターネットや衛星放送による海外の情報の流入、そして海外で暮らしていたアフガニスタン人の帰還など、外の情報が入るにつれ、新年やクリスマスなど西暦における行事や節目の認知度が高まっています。一部の商店やホテル等では、外国人客を意識したものか、クリスマスツリー等も飾られています。一方で、このような変化を西洋化や反イスラム化の動きであるとし、批判を強める保守派や原理主義派の人達もいます。

現在、特に宗教行事と関連したイスラム暦における行事（断食月など）や、ペルシャ暦における正月を祝うナウルーズなどが各地で盛大に祝われています。多くの人々は、家族や知人の家に集まり、皆の幸せを祈願しつつ、共に食事をとります。日本のお年玉と同じ

慣習が古くからあるため、アフガニスタンの子供達も「イディ」とよばれるお年玉(現金やプレゼント)を楽しみにしています。また、貧しい人々や孤児に対しての寄付や喜捨も多く実施されます。

西暦 3 月に祝われるナウルーズでは、特にアフガニスタン北部に位置するマザリシャリフでの祭典が有名です。昨年のナウルーズの際は、マザリシャリフの様子が生中継でテレビ放送されました。アフガニスタン各地からだけでなく、イランやタジキスタン等の近隣諸国からも多くの人々が訪れます。

現在は治安が劣悪に悪い状態ですが、治安が改善した将来には日本人や外国人観光客がナウルーズの祭典に足を運び日がくるかもしれません。

アフガニスタンは古来の昔より、ゾロアスター教や仏教等の宗教、そしてペルシャ、インド、アラブ発祥のイスラム文化など、多くの宗教や文化が交差したシルクロードを代表する国です。未だに戦闘行為やテロが続き、極度の貧困に苦しむ多くのアフガニスタン国民は西暦どころか、自分たちの伝統的な暦における正月や行事を祝ってはられない状態にあると思うと、心が痛みます。

最近、私が出演している NHK ラジオ国際放送ペルシャ語番組で日本の正月の紹介をしました。日本の正月文化がアフガニスタン等のペルシャ語圏に広く知られる日がくるかもしれません。

## アガ・カーン財団パーミヤン・エコツーリズム・プロジェクトマネージャー

### アミール・ファラディー氏に聞いた

今から 10 年前の 2001 年 3 月、タリバンに爆破された、アフガニスタン・パーミヤン谷の大仏。新政権発足後も、内戦状態は収束したとは言えず、復興に向けて呻吟しているといった状態に変わりはない。私(大野)は、昨年春、来日し、音楽文化の普及による復興に取り組むグルザマン氏にインタビューし、新アフガニスタンの一端を垣間見たが、このほど文化遺産をアフガンの復興に役立てたいと活動するアガ・カーン財団パーミヤン・エコツーリズム・プロジェクトマネージャーのアミール・ファラディー氏の話聞いた。グルザマン氏は、タリバンがかつて禁止し今でも攻撃の対象と考えている音楽の普及が、アフガンの平和と安定に必要なだと、暗殺を覚悟して「アフガニスタンスター誕生」プロジェクトに取り組むと決意を述べていた。ファラディー氏は、タリバンが異教徒の象徴として破壊した仏教遺跡の保護活用に日本、イタリア、ドイツ、フランスの専門家と協力して、民政の向上につながる文化遺産の保護を模索している。1 月 20 日、東京国立博物館で開催された「第 34 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会 『復興』と文化遺産」(主催:東京文化財研究所)での発表を終えたファラディー氏に話を聞いた。(聞き手:大野遼, 通訳:東京文化財研究所文化遺産国際協力センター山内和也・地域環境研究室長)



パーミヤンの大仏が爆破された時にどこにおられましたか。内戦の開始と共に 1989 年から家族と一緒にイランで難民として生活をしていました。今 38 歳ですから当時 28 歳。

大仏破壊の情報はどのように受け止めた。

BBC のラジオで知った。アフガニスタン人としては毎日のように暗いニュースばかりで慣れていましたが、このニュースには、取り返しのつかない、人生最悪の出来事のように思った。町が破壊されても再建はできるが、文化遺産の破壊は取り戻すことができない。

ファラディーさん以外のイスラーム教徒である一般のアフガニスタンの人はどう受け止めたのでしょうか。

アフガニスタン人はもちろんイスラーム教徒であるけれど、パーミヤンの人々は大仏に親しみを感じていたし、ほとんどのアフガニスタン人は仏像を歴史的に重要な文化遺産と受け止め、誇りに思っていると思う。

アフガニスタンの現状では、大仏の再建や文化遺産の保護などより民政の安定の方が重要だという考えもあると思うが、これをどう

考えているか。

破壊された東西二つの大仏のうち一つは、可能なら再建したらどうかと考えている。現在ドイツの専門家が破壊された大仏の破片をつなぎ合わせることによって復元しようと試みている。もう一つの大仏は、災禍、そして文化財の悲劇の象徴として今のまま残しておくのがいいのではないか。

現在行われている文化遺産の保護・修復の作業は復興に役立つと思いますか。

当然 100 パーセント役立つと思います。文化遺産が保存され、多くの人々が来るようになれば経済効果も高いと思う。これがうまくいけば、アフガニスタンの人が文化遺産を守っていこうという気持ちももっと強くなる。過去もそして現在も戦争が続いており、世界の人々の関心も大きいし、これで戦争が終われば、多くの人々が来てくれるでしょう。

戦争は終息すると思いますか。

戦争はいつまでも続かないでしょう。いつかは平和が来る。

#### インタビューとして

バーミヤンは、玄奘三蔵が訪れた仏教遺跡として知られているが、アフガニスタンの内戦の渦中に灰燼と化し、現在国際協力によって二つの大仏（東西大仏）のあった崖の補修（イタリア）、大仏破片の保護（ドイツ）、大仏前の僧院伽藍遺跡の調査（フランス）など役割を分担して毎年専門家会議で情報を交換している。日本は、遺跡や壁画の保護、活用計画案の作成、人材育成などで活動している。ファラディー氏の属するアガ・カーン財団は、世界的に著名なイスラーム教イスマイル派の指導者の家系で、屈指の競走馬のブリーダーでもあるアガ・カーン家が創設した。世界各地で、学校、病院を建て、遺跡修復に協力し、イスラーム美術館をトロントに建設し、特に建造物の保護には熱心なことで知られる。この財団が、バーミヤン・プロジェクトを推進し、イスラーム建造物ではない仏教文化遺産を活用したエコ・ツーリズムに取り組んでいることに驚いた。アフガニスタン・イスラーム社会の中で、このバーミヤン仏教遺跡の保護修復事業がどう受け入れられていくのが注目される。

## 【中央アジア・トルクメニスタンから】 イスラム教の祭り「グルバンバイラム」



アシルムハムメドフ・アシル（トルクメニスタン・アザディ世界言語大学学生）

「グルバンバイラム」というのはアラビア語で「供物奉納の祭り」という意味で、ラマザン（ラマダン）断食の 70 日後に祝うイスラム教の祭りだ。

歴史によると、ジェブライル大天使がイブラヒムプロフェットの夢に出て来て、神様からの伝言をしたそう。伝言は「自身の息子を奉納として殺しなさい」という命令だった。イブラヒムプロフェットはミナという今のメッカが建っている谷に行って用意し始めた。しかし、それはイブラヒムのための試練であって、供物の準備ができた時、神様がイブラヒムの息子を子羊に換えたということだ。そして、この祭りは慈悲や神様が偉大だから、最も良いいけにえは宗教だという意味を表している。イスラム教の習慣では、グルバンバイラムの時羊を解体し、親戚や近所の人や貧しい人に羊の料理を作ってあげることになっている。

今年僕の家族も羊を解体し、7つの家族にあげることにした。父親が羊を買って、殺してもらい、母親が羊の肉を焼いて、みんなで食べてから、お祈りをした。お祈りする時は「神様がこの奉納を受け取りますように。将来もこのような料理をください」と望む。その間ずっとどこか出かけて、おなががいっぱいになるまで、トルクメンの伝統的な料理であるドグラマ（炊いた羊の肉と玉ねぎを細

タリバンも戦争には疲れていると思う。後、4、5年で収束することを祈っている。

文化遺産の保護や活用のためには人材の育成が課題だと言われているが、若い人の中でこうしたプロジェクトに参加することを希望している人は多いのですか。

大学の卒業生もたくさんいます。新しい若い人は、エネルギーもあるし、関心も高い。人材育成という若い人への資本の投下も必要だ。アフガニスタンではまだ、20 - 30年前に政府のために働いていたような古い世代の人たちが今も政府の重要なポストを占めている。新しい世代は、理論的には学んでいるが実践的経験が少ない。若い人に責任を持たせるために、古い世代の経験を若い世代にどのように移行するかでは問題がある。私より若い世代で責任を担っている人はまだ多くない。

かく分けられたパンに入れて出汁で食べる料理）やピラフ（炒めた米を様々な具とともに出汁で炊いた料理）を食べた。

翌日は1年ぶりにバルカン州に住んでいる祖母のところへ行くことにした。バルカン州に向かっている間は、天気もよくて、途中で会った友達とおもしろい話をしながら行ったので、時間が速く経った。祖母は僕が来ることを何も知らなかったの、僕を見てびっくりした。本当にうれしかったようです。バルカン州の人々もグルバンバイラムを楽しんだり、多くの若者は大きなブランコに乗ったりしていた。僕はバルカンにいる間、祖母や他の親戚と楽しい2日間を過ごし家に帰ることになった。

僕はこの祭りの前に楽しみにしていた気持ちが感じられ、休みは3日間しかなかったが、有効に時間を使ってよかったと思う。しかし、トルクメニスタンのグルバンバイラムは他のムスリムの国々と違って、4日間ではなく3日間しか祝うことができないのは、やはり残念なことだ。それでも、祖母のおいしい魚の料理を食べられたのは、絶対に忘れられない思い出になった。来年もグルバンを楽しもうと思っている。

（この原稿は日本語教師森崎律子さんのご厚意で掲載させていただきました）

## 加藤九祚先生米寿の挑戦顕彰ツアー・テルメズの旅に参加して

宮崎県門川町・河野眞一

### 「アイルタム幻想」世界初演の感動ツアーを支えた人々

11月19日  
関西空港で小島  
崇文さん、大野さ  
んと合流して空  
路7000kmの  
タシケントに  
着くとホテルな  
どの諸手続きを  
手際よく済ませ  
て待っていたク  
ラブの仲間アザ  
ムさん、ガイラ  
ットさん、翌日  
からはジャンさ  
んも加わり強力  
なスタッフが揃  
った。

カラテバ遺跡  
をはじめ、サマ  
ルカンドやタシ  
ケントの博物館  
やコンサートホ  
ールなど5会場  
で開催される演  
奏会の準備のた  
め、昼間はタシ  
ケント市内を中  
心に



大野さんに同行、関係機関との細部の打合せについては流暢な日本語で通訳を手伝う。ホテルに帰っても寝食を忘れて遅くまで資料の翻訳や会場との調整など熱心に活動する彼らの姿は実に頼もしいものであった。一方、日本とウズベキスタンを代表する演奏家や舞踊家達の一心不乱な練習も白熱し閉館時間を過ぎても終わらない。暖房が節約されたホールの中で、加藤先生も最後まで熱心に立ち合わせた。会館職員の再三にわたる退館を促される中、両国の演奏家達が満足の笑みを浮かべた時は既に夜の10時近かった。

加藤先生の米寿をお祝いするための集大成とも云うべき一大事業は、大野さんの信条に基づき進めてきたユーラシアンクラブの仲間達と長年にわたり展開してきた活動の大きな節目の一つにも位置付けられていると聞く。これまでの活動の中心に据えて来た、仏教伝来とアジアの音楽普及が一体であったことを示すアイルタムの「楽人」に焦点をあて、それを象徴するために今回のツアーに合わせて創られた名曲「アルタイム幻想 アムダリア河を渡った響き」が、タシケントの青年宮殿の大ホールで世界初演され、日本とウズベキスタンのチャンピオンミュージシャン達の超絶技巧とともに聴衆から絶賛された。合わせて、歴史都市で開催された演奏会においての、それぞれ特徴的な音楽空間創りを支えたアザムさん、ガイラットさん、ジャンさんらの熱心な活躍は、各会場の聴衆の拍手喝采を浴びる名演に繋がり、日本人として只一人壮大なカラテバ僧院伽藍遺跡での発掘調査を続けてこられた加藤先生の米寿のお祝いにふさわしい、楽しく壮大な音楽キャラバンの成功に結びついた。

12年間に及ぶ偉業を称えるカラテバの丘での演奏中の先生の感慨深そうな横顔、終演とともにアムダリア河の彼方に沈もうとしていた鮮烈な赤い夕陽が心に残る。そして、これまでのロシア極東・シカチアリャンやキルギスなどを旅する中で何度も目にしてきた大野さんに元気づけられる現地の人々の姿に今回もまた幾度も出会い自分をも励まされた旅を契機に、沈む夕陽に加藤先生米寿の挑戦の雄姿を重ね、一日に感謝するとともに平和の日の出を心から祈る日々を努めて行きたい。

## ～テルメズのカラテパから七重塔が見える～

旅から帰って間もなく、大野さんから 1 2 月 2 9 日開催のユーラシアンクラブ忘年会の案内をもらった。あいにく、花園ラグビー場で行われる宮崎県代表日向高校ラグビー戦の応援と奈良県の明日香村、桜井市、橿原市(神武天皇縁で宮崎市と姉妹都市)を巡る旅行計画があると伝え忘年会を辞退すると、計画の旅行地に加えて奈良公園・二月堂、頭塔(ずとう)は必見とのこと。以下大野さんの教示によると、

頭塔を手掛けたと言われる実忠和尚(じつちゅうわじょう)は、東大寺・二月堂のお水取りの行事を創めた人で、インド人ともペルシャ人とも言われるが、ペルシャ系の人と考えられる。空海を取り立てたのもこの人で、日本の仏教文化の基層を良弁、行基らとともに築いた人。頭塔はカラテパで見たストウーパです。クシャン時代に形成された大乘仏教は、イラン系、インド系などといわれるが、要はペルシャ系文化の中から生まれたところがあり、それが観音信仰や弁才天信仰として引き



継がれている。鑑真和尚に同行してきたソグド人(ペルシャ系・商人)で、安如宝という人がおり、小島さんのおかげでいくことになったブハラ出身のソグド人と考えられる。何度も日本に渡航しようとした鑑真和尚の応援部隊にソグド人の商人たちの経済力があつたと思われる。鑑真がいた揚州には大きなソグド社会があつたとされ、安如宝は、商人としてあるいは鑑真のサポーターとして来日しそのまま日本にとどまり、得度し、唐招提寺を率いる地位に上つた。彼がかかわつた薬師如来立像の手のひらから銅銭が発見され、ソグド人が生まれた子供には蜜を口に含ませ、銅銭を握らせるというペルシャ系ソグド社会の習慣が現れていると注目された。

日本の古代社会は多くの渡来人がかかわり今日の基礎を築いたが、実忠、如宝のことは、せつかくカラテパまで行き、ブハラもたずねたことなので、日本の仏教文化の祖と云うべき、良弁や行基のバックを固めたペルシャ系の人物のことを意識すると、その後の弁財天や観音信仰などに繋がって行く、リアリティを感じると思う。ペルシャ人の動き、影を追うと仏教伝来が見えてくる、

奈良の旅行では、大野さんに薦められる頭塔(ずとう)見学を優先した(二月堂は公園の改修工事のため拝観出来なかった)。写真のようにいたるところ修復されてはいるが、日本で初めて見る石組みの大きな塔の全容はまるでピラミッドを思わせる。

テルメズのカラテパから七重塔が見えると云った大野さんの言葉を思い浮かべながらの頭塔見学は今後も大野さんの活動に参加する架け橋の延長になるのだろうと、考えながら牽牛子塚古墳(斉明天皇と娘の間人皇女の合葬墓...)、奈良県纏向(まきむく)遺跡にある箸墓(箸中山古墳)をもって、卑弥呼の墓とする見方が、にわかに注目され始め邪馬台国論争はここにきて、畿内説が極めて有力になったという、びっくりするような話になってきた明日香村を訪ねた後、橿原神社に辿



り着いたのは夕方 5 時の閉門寸前のところ、奈良平城宮跡近くに住む従兄妹の黒田清隆・寿子夫妻が係員を上手く口説いて 5 分間のみ参拝が叶った。橿原神社での参拝直後、突然に見舞われた激しい雷雨の中を急ぎ車に避難する瞬間は何やら神秘的な想いがした。

【イラン・イスラム共和国大使館からのお知らせ】

## チャリティーバザーのお知らせ

イラン・イスラム共和国大使館 / Samimi (イラン人男性を配偶者に持つ日本人女性の会) 共催

日本・イラン文化交流協会 協力

イラン料理、手工芸品、ペルシア絨毯、ハーブ化粧品、織物など

日時：2月6日(日) 午前10時から16時まで

場所：イラン・イスラム共和国大使公邸(港区南麻布 3 - 10 - 32)

### メディア・ユーラシア情報

#### <<中央アジア>>

#### 大統領の任期延長問う国民投票を実施へ カザフスタン

【モスクワ=副島英樹】中央アジアのカザフスタンをソ連末期から率いるナザルバエフ初代大統領(70)の任期延長問題をめぐり、カザフスタン議会(上下両院)は14日、国民投票で初代大統領の任期を延長できる規定を憲法に盛り込む改憲案を全会一致で可決した。中央選挙管理委員会も同日、大統領任期を2020年まで延ばす国民投票の実施を大統領府に提案した。大統領の最終判断に国内外の関心が集まっている。

大統領選を経ずに国民投票で大統領の任期を決めることになり、米国はすでに「民主主義の後退だ」と牽制(けんせい)。インタファクス通信によると、欧州連合(EU)も14日、「政治システム民主化からの離脱を意味する」と批判し、欧州安保協力機構(OSCE)も「カザフスタンが負う国際的義務に反する。国民投票で定期選挙の代用はできない」と批判姿勢を鮮明にした。

ナザルバエフ氏は今月6日、国民投票の実施を拒否する姿勢を見せたが、「国民主導」の実施要請署名は500万人分に達し、議会も実施を承認したことで、「下からの要望にやむなく応じる」形が整ったことになり、判断が注目される。ナザルバエフ氏は、ソ連崩壊で1991年に独立宣言したカザフスタンの初代大統領に就任。現在の任期は2012年に満了するが、国民投票で承認されれば、20年12月まで最高指導者の地位に就き、通算30年に及ぶことになる。(朝日新聞 asahi.com 2011年1月16日)  
<http://www.asahi.com/international/update/0116/TKY201101160003.html> より

#### キルギスに「プーチン峰」誕生へ 親口姿勢を強調

【モスクワ=副島英樹】中央アジアのキルギスに「プーチン峰」が誕生しそうだ。イタル・タス通信などによると、アタムバエフ新首相がロシアのプーチン首相にちなみ、北部チュイ州の天山山脈にある4500メートル級の無名峰を「ウラジーミル・プーチン峰」と命名する法案に署名、議会に提出した。

昨年4月の政変を経て新体制に移ったキルギスでは、昨年12月に就任したアタムバエフ首相が最初の外遊でロシアを訪問。会談したプーチン首相から閣僚全員を一人ずつ紹介されるなど手厚く迎えられ、「ロシアとキルギスは切り離せない関係にある」と戦略的パートナー関係を強調した。法案への署名は、12月末の訪口直前の同24日に済ませていた。親口の姿勢を打ち出す狙いがあると見られる。

キルギスには中央パミールに「レーニン峰」(7134メートル)があるほか、2002年には天山山脈の5千メートル級の未踏峰がロシア初代大統領にちなんで「エリツィン峰」と名付けられている。(朝日新聞 asahi.com 2011年1月6日)  
<http://www.asahi.com/international/update/0105/TKY201101050137.html> より

#### キルギスの民族衝突、前大統領派が関与 国家委が結論

【モスクワ=星井麻紀】昨年6月、中央アジア・キルギス南部で2千人以上ともされる犠牲者を出した民族衝突で、原因を調査していた同国の国家委員会は11日、パキエフ前大統領派を含む複数の集団が国内情勢の不安定化を狙って引き起こしたとの結論を明らかにした。インタファクス通信などが伝えた。

また、4月ごろから民族衝突の兆候があったにもかかわらず放置

したとして、臨時政府や治安機関の責任を指摘した。

現地からの報道によると、バキエフ氏が失脚した 4 月の政変後、キルギス国内のウズベク系住民が権利拡大を求める集会を相次いで開催。キルギス系住民との間で緊張が高まっていた中、ウズベク系リーダー数人が暴力をあおったとしている。

また、バキエフ氏の息子が過激派組織に資金供与して戦闘員を雇っていたと断定。臨時政府メンバーの親類も対立に加担するなど、様々な勢力が加わっていたという。

民族対立には第三国の関与が取りざたされたが、委員会は「確認できなかった」とし、ウズベキスタン、ロシア、タジキスタンも含めた追加的な調査が必要だとした。

委員会は昨年 7 月、事件の真相解明のため大統領令で設置されていた。

<http://www.asahi.com/international/update/0112/TKY201101120438.html> より

### タジキスタン、中国に領土 1000 平方キロを割譲

中央アジアのタジキスタン下院は 12 日、中国政府との間で調印された国境画定協定を賛成多数で可決した。中国網(チャイナネット)が 13 日、タジキスタンの通信社、アジアプラスの報道を引用して伝えた。これによりタジキスタンは中国に約 1000 平方キロメートルの領土を割譲することになり、両国間に存在した 130 年間にわたる領土紛争が決着する。

中国とタジキスタンの領土紛争は、19 世紀後半の帝政ロシア時代までさかのぼる。中国はタジキスタン東部のパミール高原の約 2 万 8500 平方キロメートルについて、旧ソ連、そして旧ソ連から独立したタジキスタンと領有権を争っていた。すでに調印された協定に基づき、タジキスタンはこのうち約 1000 平方キロメートルの領土を中国に割譲する。(編集担当: 阪本佳代)(朝日新聞 asahi.com 2011 年 1 月 12 日)サーチナ 2011 年 1 月 14 日 [http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2011&d=0114&f=politics\\_0114\\_009.shtml](http://news.searchina.ne.jp/disp.cgi?y=2011&d=0114&f=politics_0114_009.shtml) より

## <<東アジア>>

### 国際人権団体、国連事務総長を名指し批判

【ニューヨーク=柳沢亨之】国際人権団体「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」(本部・ニューヨーク)は 24 日に発表した今年の年次報告で、潘基文(パンギムン)国連事務総長について、中国などの人権侵害を「批判する気がない」と名指しで批判した。

国際人権団体が事務総長を公然と批判するのは異例。

報告は序文で、国際社会が近年、経済関係への配慮などから人権弾圧を見過しているとして指摘し、潘事務総長の対応は「特に消極的」と評した。事務総長が昨年 10 月、ノーベル平和賞受賞の劉曉波氏釈放を要求せず、昨年 1 月の胡錦濤・中国国家主席との会談でも人権問題を取り上げなかったと明記した。これに対し国連副報道官は 24 日の記者会見で、「事務総長は人権擁護に最も効果的な方法を戦略的に判断している」と反論した。(2011 年 1 月 25 日 17 時 36 分 読売新聞)

<http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20110125-0YT1T00783.htm> より

### 中口国境の島、ロシアも開発計画、商業・娯楽施設建設へ

朝日新聞 asahi.com 2011 年 1 月 20 日

【瀋陽=西村大輔】ロシア・ハバロフスク地方政府はこのほど、中口の国境にある大ウスリー島(中国名・黒瞎子、ヘイシアツウ島)の総合発展プロジェクト(2010~16年)を承認したと発表。193億ルーブル(約530億円)を投じ、商業・娯楽施設などを建設する計画を明らかにした。

中口の国境画定作業の最大の係争地だった同島は、08年にロシアが中国側に島の一部を返還し、双方が開発計画を進めている。日中、日ロが領土問題でぎくしゃくするなか、中口の国境では着々と経済協力事業が進んでいる模様だ。

中ロ双方から大ウスリー島に橋をかけ、両国を陸路で結ぶ計画で、道路や税関施設などの建設が決まっている。同島の返還部分を管轄する中国黒竜江省撫遠県とハバロフスクの間の交通手段は現在、小型客船しかなく、陸路の開通で人・モノの往来が格段に増えると期

待されている。

ロシアの地元メディアによると、15年までに同島のロシア側にホテルやオフィスビル、商業センター、物流センターなどの商業関連施設のほか、水上公園、ロシア文化センター、馬術場、約470戸の別荘などの娯楽・観光関連施設も建設する。

地元政府は20年までに中国から年間150万人の旅行客を見込み、毎年、21億ルーブル(約60億円)の観光収入増になると推計している。

中国政府も同島周辺の開発に1千億円以上を投じ、島に「経済貿易開発区」や「東極(最東端)旅行区」、ショッピングセンター「中国城」などの観光施設や商業施設などを建てる計画を進め、撫遠県内に空港や鉄道を建設するなどインフラ整備を急いでいる。

<http://www.asahi.com/international/update/0117/TKY201101170121.html> より

### 北朝鮮、労働者 2 千人派遣計画...中国で外貨稼ぎ

【瀋陽=比嘉清太】中国と北朝鮮が1月上旬、中国黒竜江省への北朝鮮労働者約2000人の派遣を協議していたことがわかった。

遼寧省瀋陽に駐在する北朝鮮総領事が、7日に黒竜江省牡丹江市を訪れて市長と会談したもので、牡丹江市によると、中露国境の東寧県に女性労働者約2000人を派遣することを巡って「突っ込んだ協議」が行われた。北朝鮮から中国への労働者派遣はこれまで多くても数百人単位で、今回の派遣が実現すれば過去最大規模になりそうだ。

東寧県は木材加工産地として知られる。韓国メディアは、労働者の派遣先は集成材工場になると伝えた。中国側では、高くても一般中国人労働者の3分の2程度という北朝鮮の安価な労働力に注目が高く、北朝鮮側も外貨を稼ぐ狙いで労働者派遣を進めている。

(2011 年 1 月 24 日 読売新聞)  
<http://www.yomiuri.co.jp/world/news/20110123-0YT1T00500.htm> より

## 再び愛川町での研修を希望！ ロシア連邦サハ共和国の子ども太鼓グループ「テティム」

昨年夏、愛川町の繊維産業会館で一週間にわたり合宿し、和太鼓奏者金子竜太郎さんの指導で県立愛川高校和太鼓部を初めたくさんのボランティア関係者の協力で研修を実施した太鼓グループ「テティム」が再び愛川町で研修したいと希望しています。以下指導者ハトラエフ夫妻の手紙を紹介しします。日時、条件などが合えば受け入れの方向で検討したいと思ひます。その節はみなさまのご協力をお願いいたします。

### 尊敬する愛川町民のみなさまへ！！

サハ共和国児童太鼓グループ「テティム」および指導者クラウディアとゲルマンの二人は、2010 年の夏、皆様の町で滞在中に受けた暖かい受け入れに対して心からみなさまに感謝を申し上げます。

皆様の学校（県立愛川高校）における金子さんの研修は、自分たちの太鼓演奏の技量を向上させる助けとなり、今後の創造的発展につながる基礎を与えていただきました。

ヤクーツクに帰国すると私たちは大きなコンサートホールで何度も演奏しました。ヤクーツク人（サハ人）の間では、太鼓芸術に対する関心が高まり、人々は喜んで私たちの演奏を聴きに訪れ、子供たちの太鼓演奏の技能に感嘆しています。

テティムの子もたちの中で一番小さかった太鼓演奏者も成長し、体力もついて、学校でも全体として評価がよくなり、成績も向上しました。研修でみなさまのところに滞在した子どもたちは、好意を示していただいたみなさまの美しい町をよく思い出しています。子どもたちは、みなさまの町で太鼓芸術の保持者である先生の下でさらに技能を向上させ、そして創造的なよい関係を失わないようにと望んでいます。

私たちは、金子先生とお会いし、今夏研修をあなたたちの町で実施して、再び私たちの友人 愛川町町民の皆さんとお会いしたいと希望しています。私たちの希望が叶えられるかどうかご検討をお願いします。

クラウディア、ゲルマン・ハトラエフと「テティム」  
2011 年 1 月 19 日 ヤクーツクより

### 2011 年 2 月 8 日、愛川町菅原小学校、高峰小学校、半原小学校で音楽鑑賞教室実施

モンゴル馬頭琴演奏者ライ・ハスローさんとネパールの竹笛 Bansuri 演奏者パンチャラマさんの研修は、ハスローさんが同日の 1 - 2 時限目が菅原小学校、3 - 4 時限目が半原小学校、5 時限目が高峰小学校。パンチャラマさんは 6 時限目で、それぞれ多目的教室や体育館で行い、父兄の参加も呼びかけています。

ユーラシアンクラブ・愛川サライの運営スタッフを募集します。アジア・シルクロードの諸民族の方々との交流を通して、アジアを視野に国家民族宗教を超えた理解親睦協力を促進し、諸民族の共生、自然との共生を模索して活動します。

アジア各地からの投稿を歓迎します。ユーラシアンクラブ・企画編集委員会までお知らせください。

3 月 19 日（土曜）東京・池袋の天府酒家で開催する「新春交歓会」にどうぞおいでください。申し込みはファックスで 03 - 5376 - 9343 もしくは 046 - 285 - 4895 でお願いします。（ご案内は別紙）

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野 遼  
住所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-11-5 TEL：03-5376-9343  
支部愛川サライ 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314 -  
1TEL/FAX：046-285-4895 E-MAIL：[paf02266@nifty.ne.jp](mailto:paf02266@nifty.ne.jp) 郵便振替：  
00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振り込の場合：ゆうちょ銀行 0  
一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ サポート会費、ご寄  
付はこちらへ。会費は年間一口 6,000 円、一口以上のご協力をお願い申  
上げます。

<http://eurasianclub.cocolog-nifty.com/>

2011 02 01 Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：日本人クラブからの脱皮に加え、「アジアから見える日本」これが今年の課題。日本橋では三味線文化の再生。愛川町では、愛川サライが本当にホッとする空間となるように基盤づくりを目指したい。まちづくりは子どもたちと共に、を常に念頭に置きたい。大人も子どもも一人一人の個性が大切。国家民族宗教を超えて理解親睦協力の促進、民族の共生、自然との共生を模索する、ことを掲げて発足したユーラシアンクラブの原点は限りなく「少数民族像にウェイトを置く」としているが、これも個性優先、生きていて良かったといえる命の原点を見つめてのこと。その意味で、アジアと日本の課題は、情報通信ネットワーク「ホットライン アジア」だと思ふ（お）